

全木連時報

11月5日(木曜日)

(第666号)

平成27年(2015年)

発行所

一般社団法人 全国木材組合連合会

東京都千代田区永田町2-4-3 ☎03(3580)3215
URL <http://www.zenmoku.jp>



木材産業シンボルマーク



第50回全国木材産業振興大会 三重県大会 開催 全国から九百名が参加 都市での木材利用拡大等への決意を新たに宣言決議を採択



祝辞を述べる今井林野庁長官



祝辞を述べる真鍋住宅生産課長

全木連と全木協連が主催する第50回全国木材産業振興大会は、「新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興」をテーマに、第二の森林を「を」をメインテーマに掲げ十月二十九日、三重県津市の「三重県総合文化センター」で九百名が参集し開催された。大会担当は一般社団法人全国木材組合連合会東海支部。大会は、今井林野庁長官、真鍋国土交通省住宅生産課長、吉川三重県農林水産部次長、葛西津市副市長はじめ多数のご来賓の出席の下、全国から九百名の会員が参加し盛会に開催された。第一部の大会議事では、別掲の大会宣言決議を満場一致で決議された。さらに昨年の大会で採択した全国森林組合連合会との間

で結んだウッドファースト社会実現への共同宣言を一步前進させ、林業関係者全体が一体となって森林・山村再生への抜本策の実現に向けた具体的な行動を起こしていくことを内容とする一般社団法人日本林業協会・全森連・一般社団法人日本林業経営者協会と共同で発表した「日本の森林・山村の再生に向けた共同行動宣言」が報告され満場一致で決議された。共同宣言では、経団連の関係機関である日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)など日本の森林・林業の復活を応援する幅広いみなさんとの連携を図り、日本の将来のため木材需要の拡大とそれを支える国産材の安定供給体制の確立などへ向けた抜本的対策の構築を目指すことを宣言した。その後吉

目次
第五十回全国木材産業振興大会特集

連合会会長の決意表明がなされ第一部が終了した。第二部は、元三重大学学長で現在三重県総合医療センター理事長をされている内田淳正氏を講師に「みんなで成熟した社会を作ろう」と題して記念講演が行われた。第三部の表彰式では、退任団体長表彰、木材産業功労者表彰、協同組合事業功績者・優良組合表彰が行われた。この後、懇親会に移り盛況のうちに閉会した。

ウッドファースト社会に向けて

全木連・全森連・林業協会と
林経協が共同宣言採択

第一部の大会議事は国歌斉唱のあと、後藤岐阜県木連会長の開会の言葉があり、この一年間の物語者に対する黙とうに続いて鈴木全木連東海支部長並びに黄瀬三重県木連会長の歓迎の挨拶があった。次に吉条良明全木連会長による大会会長挨拶があった。

続いて来賓祝辞があり、農林水産大臣(代理)今井林野庁長官、国土交通大臣(代理)真鍋住宅産業課長、三重県知事(代理)吉川農林水産部次長、津市長(代理)葛西津市副市長)から祝辞があった。次いで大会宣言の決議にあたり、野地良成三重県木青連会長より現地基調報告があり、内山弘静岡県木協連副会長が大会宣言を朗読した。別掲の大会宣言決議を満場一致で決議した。



歓迎の挨拶をする鈴木東海支部長と黄瀬三重県木連会長

さらに森田一行全木連常務理事が「日本の森林・山村の再生に向けた共同行動宣言―森林・山村再生に向けた抜本対策実現への挑戦―」を読み上げ報告し、満場一致の賛同を得た。最後に全木連会長吉条会長は、決意表明において「森林、林業及び木材産業の重要性についての、国民の理解は深まってきており、今こそ、戦後長く続いてきた街づくりにおける非木質化の流れを変え、木材の時代を作る大きなチャンスが巡ってきている。今回の共同宣言を契機として、森林・林業・木材産業界が一体となって行動していけば、森林・林業・木

宣 言 決 議

新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興 ― 木材利用で街に第二の森林を ―



報告をする野地三重県木青連会長

木材利用の拡大は、森林・林業の活性化のみならず地球温暖化の防止、地域経済の活性化などを通じ、豊かなくらしや低炭素社会の実現に大きく貢献するものであり、さらなる取組みの強化が必要である。政府の公共建築物等への木材利用促進対策や地域の住宅建設関係者等との連携強化などへの支援を通じ、木材利用、地域材利用に対する人々の関心が大きく高まりつつある中、木材を優先して活用する社会「Wood First(ウッドファースト)社会」の実現に向けて、関係者が連携、協力をいっそう強化し、木材利用の大幅な拡大を進めるため、森林、林業、木材産業関係者が消費者、ユーザーに対して具体的な行動を起こす時がきている。

住宅分野に限らず、街づくりの中での木材利用拡大を進め、木材産業の再興を成し遂げるためには、安全安心な木材の安定供給体制の構築とともに、生活のあらゆる場面で木材を利用するための様々な制度など、社会的な課題を認識し、広く消費者、ユーザーにも理解と支援が得られる取組みを木材産業界自らが率先して展開していくことが重要である。

そのため、次の事項について多様な関係者の連携の下に英知を結集して行動する。

記

1. 木材利用の大幅な拡大を実現するため、森林・林業・木材産業関係者が一体となった木材利用拡大運動を進めよう
1. 新たな木材需要拡大への支援対策・予算の実現と拡充に取り組もう
1. 高層建築物、商工業施設をはじめ暮らしにかかわるあらゆる分野に木材利用を創出するため、CLTなどの新しい技術の開発・活用等の取り組みを進めよう
1. 東京オリンピック・パラリンピック関連施設への木材利用を実現しよう
1. 木材産業の成長産業化を目指して、効率的な生産・加工・流通体制の構築、税制度の確立、木材貿易の適正推進、間伐材・未利用材の木質バイオマス発電利用、新規分野の開拓促進に取り組もう
1. JAS製品、合法木材・木製品、乾燥材など、安全安心で品質・性能の確かな木材の供給や担い手の育成確保に取り組もう

材産業活性化のための抜本的対策の実現も可能になると考えております。その実現のために、「木材需要の拡大なくして日本の森林・林業の活性化は成しえない」という認識の下、木材産業界はその中心として努力していかなければならない。」と述べ、その決意を表明した。



熱弁をふるう内田講師

日本の森林・山村の再生に向けた 共同行動宣言

森林・山村再生に向けた抜本対策実現への挑戦

戦後造成された森林資源が成熟し利用期を迎える中で、森林を活力ある状態で維持し、地球温暖化防止・地方創生等への最大の貢献を実現していくためには、木材利用を拡大するとともに、再造林等を通じた森林資源の循環利用を促進していくことが、我が国森林・林業・木材産業にとって不可欠な課題となっている。

一方、森林の地球温暖化防止に対する役割や充実する森林資源の活用を通じた地方創生への意識の高まりを背景として、森林・林業・木材産業界以外にも林業の成長産業化に向けた取り組みが生まれてきている中、森林・山村の再生に向けた抜本的な対策を実現していく絶好の機会が訪れている。

今、訪れている好機を捉え、森林・山村の再生を実現していくためには、日本の森林・林業の復活を応援する多方面の団体と連携して、森林・林業・木材産業界が一体となった行動を起こしていくことが必要である。

こうした認識の下、我々4団体は、日本の森林および山村の再生のため、以下の実現に一体となって取り組んでいくことを宣言する。

記

- 1 森林および山村再生のための抜本的対策の実現を目指した運動展開へ向けて、広く森林・林業・木材産業関係者への参加の働きかけを行う。
- 2 森林および山村の再生へ向け行政・産業界・林業界の力を合わせた全国・地方レベルでの取り組みの展開に努める。
- 3 経済界をはじめ国民各層との連携を図りつつ、法改正を含めた制度改革を視野に置いた対策をはじめ木材需要の拡大とそれを支える国産材の安定供給体制を確立するための取り組みを推進する。
- 4 地域おこしグループ、NPO など各層における国民運動の担い手との結びつきを深め、木材利用、森林・山村再生への国民理解の一層の醸成に取り組む。



挨拶をする坂東全木協連会長

第二部は、三重県総合医療センター内田淳正氏を講師に「みんなで成熟した社会を作ろう」と題して記念講演が行われた。熱のこもった話しぶりに会場全ての参加者は引き込まれてしまった。

第三部の表彰式は、坂東正一郎全木協連会長の挨拶により始まり、今井敏林野庁長官のご出席をいただき退任団体長表彰、木材産業功

労者表彰、協同組合事業功績者・優良組合表彰が行われ、都築透長野県木材協同組合副理事長の挨拶により閉会した。この後、三重県鈴木知事も参加され、多数のご来賓のご出席の下、懇親会が盛況に開催された。

第50回全国木材産業振興大会 栄えの受賞者(敬称略)

前大会以降退任団体長表彰

全木連会長感謝状

秋田	山形	茨城	静岡県	高知県	長崎県	秋田	山形	茨城	静岡県	高知県	長崎県
沖野	成地	戸栗	片岡	山根	北山	増北	山根	北山	増北	山根	北山
菊田	純成	芳純	博健	恒忠	忠	忠	恒忠	忠	忠	恒忠	忠
一夫	成地	成地	成地	成地	成地	成地	成地	成地	成地	成地	成地

全木連会長感謝状

宮城	秋田	山形	茨城	静岡県	高知県	長崎県
林野	野	野	野	野	野	野
野	野	野	野	野	野	野
野	野	野	野	野	野	野

新潟	群馬	福島	岐阜	静岡県	愛知県	三重県	和歌山	岡山	広島	香川県	愛媛県	長崎県	宮崎県	鹿児島	鹿島	北海道
湯野	井田	岡崎	知重	重三	大合	平合	佐下	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本
田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田
由博	義雄	于壽	孝剛	剛	求	士	治	夫	吉	二	尚	二	尚	二	尚	二

兵 大 滋 三

庫 阪 賀 重

籠 山 中 福 京 上 小 新 田 阪 鈴
谷 下 川 本 野 谷 田 中 口 木
紘 智 俊 桂 幸 雅 修 則
義 二 郎 勝 太 喬 代 子 之 穰 俊 幸



受賞者を代表して謝辞を述べる落合氏

山 全 熊 高 愛 岡 兵 大 三 岐 福 富 原 木 問 秋 北 林
形 本 知 媛 山 庫 阪 重 阜 井 山 木 材 屋 田 道 野 庁 長 官 感 謝 状
相 坂 溝 白 山 大 上 浦 宮 日 湯 西 島 大 岡 藤 山 林
田 田 渕 石 下 西 野 本 脇 下 部 上 村 根 堀 田 井 田 義 信
吉 鉄 浩 正 政 勝 雅 昌 亮 幹 雅 隆 良 一 信
則 太 郎 一 隆 憲 一 司 史 美 豊 巖 彦 夫 之 夫 一 信

協同組合事業功績者・優良組合表彰

鹿 大 福 高 愛 徳 広 岡 和 兵 大 三 愛 静 岐 長 福 富 東 京 東 京 東 京 群 栃 茨
児 分 岡 知 媛 島 島 山 山 庫 阪 重 知 岡 阜 野 井 山 (原 木) (材 商) (間 屋) 馬 木 城

加 柴 高 山 福 梶 川 河 中 山 岡 川 松 森 森 濱 永 伊 丸 上 服 海 新 東 濃 の き 白 川 の 養 蚕 協 同 組 合
藤 田 田 本 井 原 原 野 川 下 本 崎 葉 口 田 田 原 藤 山 地 部 野 川 堀 邊 野 本 美 谷 島 内 鈴 小 豊 岩 加 大
悦 義 和 恵 重 久 繁 仁 充 昭 幸 一 誠 ふ と み 育 和 富 浩 賀 隆 知 隆 哲 正 圭 政 貴 功 信 久 幸 宜
孝 勝 行 夫 三 雄 平 典 志 洋 徳 郎 勉 郎 一 子 子 男 之 充 夫 弘 優 明 雄 信 祐 夫 博 治 一 雄 夫 孝

林業・木材産業の発展を支えます！

昭和38年創立以来、林業・木材産業事業者の方々に必要な事業資金の債務保証を行っています。

(対象業種)

造林・育林

木材・木製品製造

林業種苗生産

素材生産

薪炭生産

きのこ生産

木材卸売



平成26年10月1日より、新たにシステム販売など協定等を締結して木材の安定供給に取り組んでいる方を対象に「木材安定供給保証(ウッド・サポート5000)」を開始しました。詳しくは信用基金までお問合せください。

独立行政法人 農林漁業信用基金

〒101-8506 東京都千代田区内神田1丁目1番12号(コープビル11階)

TEL: 03(3294)5585~5586 FAX: 03(3294)5595 URL: <http://www.jaffic.go.jp>